

二国間交流事業 セミナー報告書

令和3年9月21日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[代表者所属機関・部局]
理化学研究所 計算科学研究センター
[職・氏名]
研究員 村瀬洋介
[課題番号]
JPJSBP2 20208810

1. 事業名 相手国: 韓国 (振興会対応機関: NRF) とのセミナー

2. セミナー名

(和文) 非平衡協同現象における多様性の役割

(英文) Roles of diversity in nonequilibrium collective dynamics

3. 開催期間 2021年8月17日～2021年8月19日(3日間)

4. 開催地(都市名)

オンライン

5. 相手国側セミナー代表者(所属・職名・氏名【全て英文】)

Hanyang University, Associate Professor, Seung-Woo Son

6. 委託費総額(返還額を除く) 80,850 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または 日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	13名	0名
相手国側参加者等	6名	0名

参加者リスト(様式B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在等、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を本委託費で負担した場合となります。

8. セミナーの概要・成果

- (1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況等。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載して下さい。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。各費目における増減が委託費総額の50%に相当する額を超える変更があった場合には、その変更理由と費目の内訳を変更しても研究交流計画の遂行に支障がなかった理由を記載してください。)

社会、生物・生態系、交通システムなどを題材とし、統計物理学・非線形科学・複雑ネットワーク科学を専門として研究を進めている日韓の研究者が集うセミナーを開催した。アジア太平洋理論物理センター(APCTP)の協力を得て、ATCTPとの共催という形でオンラインイベントを開催した。

コロナ感染拡大時であったため現地開催は断念し、旅費の支出が不要となった。そのため最終的な支出はオンラインプラットフォームの利用料金のみとなった。

- (2) 学術的価値(本セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

非線形科学・統計物理学的な視点から複雑系全般に対する様々なテーマに基づく研究発表が行われた。具体的には Network, Big Data, Biological Physics, Computational Science, Complex systems というセッションを設け、それぞれの専門知識や技術を共有する機会を得た。

- (3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

両国の研究者の学術的な研究発表を端緒として、両国の研究者の間での多くの交流が生まれた。特にワークショップ中は発表時間の間に自由討論の時間を長めに設け、また参加者間での会話を促すようなオンラインプラットフォームを採用した。これらの工夫が功を奏し、オンラインという制限がある中でも研究者間の人脈構築に寄与することができた。

- (4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

本セミナーの発表テーマは、たとえば SNS やブログ、twitter などのオンラインプラットフォーム上におけるネットワーク形成や意見ダイナミクスなど、現代社会が抱える大きな課題の解決に直接的に貢献する研究発表が多く、現代的諸問題の解決に資するものであった。

- (5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取り組み、成果)

本セミナーでは、若手研究者養成を重要なミッションとして捉えており、博士の学位を取得して数年以内の若手研究者に、積極的に登壇者としての機会を提供した。また、萌芽的な研究構想についての発表を奨励するポスターセッションを設け、そこでは学生からも多くの発表が行われた。

(6) 将来発展可能性(本セミナーを実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

今後の両国の研究者間でのさらなる研究に寄与することはもちろん、今後の継続的な両国の間での研究交流や共同研究に発展する可能性が認められる。

(7) その他(上記(2)～(6) 以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記述してください)

日本側代表者 村瀬と韓国側参加者 Baek との間での共同研究の論文を投稿予定である。